

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北陸)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は前年同月比で約30%増加と好調だが、その中身が大きく変化している。前年1月にはあった春節需要が今年はないため、中国からのインバウンドを中心とした免税売上は前年比では激減している。しかし、それを補って余りあるほど日本人観光客の売上が急伸しており、全体を押し上げている。これまでのインバウンド依存から、国内需要を中心とした成長へと転換しつつある手応えがある。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数は増えつつあるが、売上は横ばいか微増である。
	○	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・年末から引き続き、来客数の微増が続いているが、節約志向や雪による外出控え、外食控えの傾向も見受けられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・今月に入ってから客との商談数が増えている。3か月前と比べて少し上向いている。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店の客はほとんどが常連客である。運送業の経営者からは物が動いていないという話で、やや不景気のようなだが、当店はぎりぎりの状態で何とか過ごせている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・1月は新年会などが多くあった。また、月の後半は大雪の影響により自家用車の使用が減ったため、タクシーの利用者が多く大変忙しい。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・前年同期と比較して売上が伸びている。大雪や寒波の影響により競輪場への来場者数は少なくなったものの、インターネット投票によって安定的な売上収入が得られている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年年明け後は人出が少ないことに加え、2度の寒波の影響により来街者が少ない。駐車場も空きが目立ち、新年の高揚は感じない。飲食店主によれば、外国人が減少している一方で、地元客が増えてゆっくり過ごしているということである。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリー品の動きはやや良くなったが、ギフトについては少し伸び悩んでいる。
	□	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・来客数が減っている。
	□	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・元日の休業や雪などの影響により売上は悪化している。特に防寒衣料は、セール価格となるため購買意欲の向上を期待したが、11～12月に購入した客が多く、新たな購入には至っていない。さらに、マフラーや手袋などの防寒具は衣料品以上にセール価格になっても購買が伸びず、買い控えの傾向がみられる。食品関連は若干回復しているが、ファッション関連は全般的に苦戦している。
	□	スーパー（役員）	販売量の動き	・地方に多い中間層、中小企業の景気が大きく上向きになる要素が少ないため、依然として、食品関連における客の節約志向は続いている。ガソリン、電気、ガスなどの負担軽減はあるが、下向きの景気を支える程度だと考える。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は悪天候が続き、競合となるスーパーやドラッグストアでは納品が滞ったものの、当店の納品スケジュールについては影響が軽微であった。また、例年と比較して納品遅れの影響が長引き、客のまとめ買い需要が高まったことから、来客数、客単価共にプラスの影響がみられる。ただし、これは一過性のものであり、今後この流れが続くとはみていない。
	□	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・今月前半から中盤までは何とか売上目標を維持できたが、後半からは雪の影響により来客数が伸び悩んでいる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大雪の影響により客足が少なくなり、売上の大きな打撃となっている。

□	家電量販店（店長）	販売量の動き	・顕著な大雪により売上が止まってしまっている。
□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・半導体不足に関連する報道からパソコンの供給不安を予見する声があり、引き続き強い動きとなっている。メリハリ消費の傾向で、全体としては前年並みの水準である。
□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・引き続き、人気車種に対する需要が高く、新車受注が堅調である。
□	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・平日、週末共に来客数が少ない状況が続いている。本来は来客数が増える土曜日でも平日並みである。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・商材が動かない。消費者の財布のひもが固く、景気が良くないということが伝わってくる。非常に悪い状態である。
□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・1月の来客数が減少しているが、原因は明確で、大寒波による降雪の影響により交通事情が悪化したためである。客の購買意欲には大きな変化はみられない。
□	観光型旅館（経理）	それ以外	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、営業再開までかなりの期間を要する見込みである。
□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全体の売上は何とか前年並みを維持しているが、宿泊部門は単価が下がっており、来客数の増加を加味しても売上は前年割れである。レストラン部門も値上げがなかなか受け入れられず来客数が減っている。宴会部門は多少伸びている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・県外からの来客数が減っている。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の動向に変化がみられない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・3か月前と同様に、前年同月と比べて契約数が同レベルで推移している。
□	美容室（経営者）	それ以外	・来客数の減少傾向は変わらないが、12月に実施した美容商品の販売キャンペーンは前年販売実績を5%以上も上回り好調である。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・毎年年度末に近づくと客の動きに変化がみられるが、今年は鈍いようである。
▲	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	販売量の動き	・年明け以降、販売量の低下が顕著である。
▲	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・衣食住に関わる商品について、表面的には食料品は堅調といえるが、単純に物価高と連動しているだけで本質的に消費が活発になっているとはいえない。株価の上昇に伴い富裕層を対象とした高額品は好調であるが、それ以外の一般中間層では買い控えの傾向が大勢を占めている。
▲	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車、中古車の受注比率が大きく前年割れしている。
▲	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・降雪の影響により、客足は例年以下である。
▲	一般レストラン（統括）	それ以外	・北陸の冬季期間は雪が降るかどうかで、外出頻度や外食頻度が大きく変化する。3回の週末で寒波予報が出た1月は、来客数が大きく減少している。マスコミの事前報道により、週末の外出を控える人が多く、来客数の大幅な減少となっている。
▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・正月は例年並みの入込だったが、雪の影響により交通機関の運休や高速道路の通行止めがあり、キャンセルが多く出ている。また、新規の予約も入ってこない状況である。
▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・高級品から企画型の割安品まで販売商品をそろえて客対応をしているが、商品の選択肢が多いせいか、決定までに時間が掛かるようになっている。金利が上昇しているため、借入金額を少なくしたいという傾向も強くなっている。
▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築の個人住宅販売については棟数が減少している。1棟当たりの単価は上昇しており、棟数の減少を補っている。

	▲	住宅販売会社（営業）	販売量の動き	・受注の足踏み感が顕著になっている。物価高騰による建設費の上昇が客の動きを鈍らせている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末まではそこそこの人出だったが、年明けから天候不順になり、来客数も減っている。足元が悪いと極端に人出が少なくなる傾向が強く、無理に出掛けてまで金を使うということとはなくなってきている。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・1月は初売りと3連休、そして後半の厳しい寒波と計16日間は雪の影響により大変厳しい営業を強いられた。唯一の明るい材料は、降雪の影響がなかった週に開催した食品物産催事で過去最高売上を更新したことである。
	×	コンビニ（店長）	それ以外	・人件費を中心とする経費の高騰から、仕入れに金が掛けられない。仕入れを抑えることは廃棄の抑制になるが、商品量を減らすことで販売量が減り、売上も減少している。年末年始においては前年比で1割以上減少し、通常日でも5%強売上が減少している。今後も商品廃棄に掛ける予算が取れず発注量の抑制を行うため、売上は減少していくと考えている。
	×	コンビニ（店舗管理）	それ以外	・年始早々の悪天候や大雪の影響により、売上が苦戦している。さらに、米価格の高止まりを中心とする食材の価格高騰と人件費増加が利益を圧迫している。
	×	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・3か月前と比較すると、婦人アパレルの場合、11月頃は秋冬商材が最も売れる時季だが、1月頃になると商品の新鮮さが欠け、セール品での商売が多くなってくる。そのため、単価、粗利益も下がって来客数の動きに左右されている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・月の前半は前年並みで推移したが、大雪の影響によりキャンセルが相次ぎ、今月は前年比80%まで落とす厳しい状況である。
	×	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・稼働率、客単価共に前年同期を下回り、宿泊収入が10%低下している。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・冬場は団体旅行が極端に減るため3か月前と比べれば当然悪いが、例年どおりの傾向である。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・1月の大雪による交通機関への影響と客の外出控えにより、来客数が大幅に減少している。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	*	*	*
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・車載関連製品に関しては、受注量に増加傾向が出てきている。民生用機器、産業用機器関連に関しては、新規の引き合いが増加傾向にあり、取引先での開発案件が増えていることがうかがえる。
	○	建設業（経営者）	それ以外	・景気は気分であるといわれるが、現内閣になってから気持ち明るくなっている。また、食料品の消費税が廃止されれば、食料品の値上がりに悲鳴を上げている消費者にとって朗報である。
	○	輸送業（経理）	それ以外	・軽油の暫定税率の廃止により、景気はやや良くなっている。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震による被災から丸2年が経過し、この1月から3年目に入ったところだが、いまだ震災前の数字に届かない状況が続いている。復興の道のりは長く険しいものだ実感している。
	□	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・懸念していた米国の関税引上げについては、今のところ目立った影響は出ていない。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は3か月前と比べて変わらず推移している。
	□	金融業（融資担当）	取引先の様子	・業種によるものの、令和7年9月期決算の企業業績は、おおむね増収減益での着地が大半を占める。単価引上げの効果も認められるが、一方で人材確保のための人件費増加から減益となっている。人件費の引上げで個人消費の増加が期待できるが、物価上昇分をカバーしているかは不透明である。
	□	司法書士	取引先の様子	・10月決算の会社の決算書をみると、同じ建設業でも増益の会社と減益の会社があり、一概にはいえない。

雇用 関連  (北陸)	□	税理士（所長）	取引先の様子	・世界情勢が不安定で、国内も突然の衆議院解散で落ち着かないなか、企業は取りあえず静観している。金がかつてないほど高騰しており、宝石類を扱うリサイクルショップは大変好調である。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・業種や企業規模によりばらつきはあるものの、人手不足を訴える企業が増えている。中にはパートから正社員募集に切り替えて長期的な人材確保を図る企業も出てきている。物価高騰に関しては、価格転嫁ができた企業が増えている印象を受ける。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・ものづくりや観光など多くの業種で旺盛な需要を抱えてはいるが、人手不足により供給体制が不十分な状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・全体的に人手不足であるという話はよく聞く。景況感について確認すると、売上は横ばいだが、原材料価格の高騰で厳しい、価格転嫁に苦労しているという話をよく聞く。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、前年同月と比較すると有効求人数や有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・大手企業によるキャリア採用募集の増加が、中小企業の採用募集に影響を及ぼしており、中小企業における強い人手不足感の傾向は変わらない。また、高齢者や短時間勤務希望の求職者が多く、企業が求める人材が集まらない状況も変わらない。
	▲	—	—	—
	×	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・年末商戦が終わり、派遣先企業からの依頼が例年どおり減っている。さらに、自動車部品製造関連の派遣先企業では、来年度の生産がかなり減る計画ということで、新たな派遣依頼がなくなっている。